



入賞した学生の皆さんと先生たち

第14回全農学生「酪農の夢」コンクール

未来の酪農を担う学生が 熱い夢や目標を発表

日本の酪農の将来を担う畜産・酪農・農学等を学ぶ学生たちから、『酪農の夢』をテーマに作品を募集。今年は、146作品にも及ぶ応募があり、意欲的な夢の中から、9名の作品が入賞した。



入賞作品の朗読や、受賞発表・表彰式の様子をご覧いただけます(全農酪農部YouTubeチャンネル)

**全146作品に託された
若さ溢れる大きな夢**

2020年11月18日、14回目となる全農学生「酪農の夢」コンクールの表彰式が、東京・大手町の会場で行われた。日本の酪農の未来を担う学生が、自身が抱く「酪農の夢」を作文として表現。文章にして明確化する事で本人のやる気を促進させる他、これからの日本酪農に新しい息吹と活力を吹き込み、酪農家や酪農・乳業関係者に、学生の若さやピュアな発想、元気を届ける事を目的としている。

開会に先立ち、J A全農の齊藤良樹常務理事は、「今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で休校が続いたにもかかわらず、全国の高校や大学32校から146作品もの応募をいただきました。若さ溢れる大きな夢を語っていただく事で、日本の酪農に新たな息吹を吹き込むとともに、コロナの影響などで厳しい状況に立たされている酪農家や酪農・乳業関係者の皆さんに夢を届ける事が、今年のコンクールの目的です」と挨拶した。

続いて会場のスクリーンに、全農所属・卓球女子日本代表の石川佳純選手が登場し、「今年は新型コロナウイルスの影響で学校がお休みになったり、クラブ活動やイベントが中止になったりと、学生の皆さんも辛い思いをされたかと思います。私も東京五輪や多くの大会が延期や中止になりましたが、今は気持ちを切り替え、次の大会に向けて準備をしています。皆さんも、どんな困難があっても

もそれぞれの『酪農の夢』に向けて頑張ってください！」と語りかけた。

会場にいた受賞者たちは大きな驚きと喜びに包まれながら、サプライズゲストからのメッセージに耳を傾けていた。

先輩酪農家を交えた 有意義な茶話会も開催

審査の結果、祖父の跡を継ぐ形で、多くの人に酪農の魅力を発信できる農場を営みたいという思いを綴った、宅間加鈴さん(京都府立農芸高等学校 農産バイオ科畜産コース3年)の「じいちゃんの想い」繋ぐ私の夢」に最優秀賞が贈られた。淡路和則審査員(龍谷大学農学部教授)は、「高校生活の一つひとつから紡ぎ出された言葉により、力強く美しい未来像が織りなされていた」と宅間さんの作品を高く評価した。その他、受賞作品は次の通り。

■優秀賞

大原達也さん(山手県立遠野緑峰高等学校 生産技術科3年) / 佐藤まりもさん(福島県立福島明成高等学校 生物生産科2年) / 田中陽満莉さん(京都府立農芸高等学校 農産バイオ科3年)

■佳作

野田葉月さん(北海道帯広農業高等学校 酪農科学科1年) / 佐藤瑞穂さん(宮城県農業高等学校 農業科2年) / 比留間瑠海さん(東京都立瑞穂農芸高等学校 畜産科学科3年) / 鈴木穂乃歌さん(神奈川県立



学校からリモート参加となった生徒の皆さん



日本獣医生命科学大学教授の小澤壮行審査員



最優秀賞を獲得した宅間加鈴さん



リモートで挨拶するJ A全農の
齊藤良樹常務理事



会場にメッセージを届けてくれた
石川佳純選手



先輩との茶話会を通じて親睦を深めた

相原高等学校 畜産科学科3年) / 友松瑠生さん(愛媛県立野村高等学校 畜産科3年)

小澤壮行審査員(日本獣医生命科学大学教授)は、「作品を通じて、若い世代が抱く酪農の夢が十分に伝わってきました」と全体を講評した。

表彰式に続き、3名の先輩酪農家がリモートで参加する、「牛乳を飲みながら夢を語ろう！」と題した茶話会を開催。「新規就農者や女性酪農家ならではの苦労」、「新型コロナの酪農への影響」といった話題をめぐり、受賞者たちとの間で活発な質疑応答がなされた。

茶話会が終了すると、スクリーンに再び石川佳純選手が登場。「皆さん、今日は本当におめでとうございました。私も今、東京オリンピックという目標に向かってたくさんの方に支えてもらいながら頑張っています。学生の皆さんも、今しかできない事にいろいろなチャレンジしてください。これからも応援しています！」とエールを送った。